

レパートリーを構成する3本の柱

皆様が最後にバレエをご覧になったのはいつでしょう。ご覧になつた演目を覚えていらっしゃるでしょうか。子供時代のお友達の発表会、日本に住んでいた頃に観た、という方、ご覧になつたのは上演回数の多い「白鳥の湖」や「くるみ割り人形」等が多いかもしれませんね。

バレエ団はそれが独自のレパートリーを持っています。レパートリーはバレエ団のハートであり、顔とおつしやる方もいらっしゃいます。言い換えれば、そのバレエ団の芸術的な方向性を示す道標のよう�습니다。

レパートリーを構成するのは3本の柱です。

1本目の柱は、「白鳥の湖」、「ジゼル」、「くるみ割り人形」といった19世紀のクラシック作品です。文学からバレエになった「ドン・キホーテ」、「ロミオとジュリエット」等もここに入ります。こうした作品が21世紀の今も昔と変わらず愛されているのは、舞踊と音楽と舞台の美しさのコンビネーションの見事さ故です。ご覧になつたことのある方は、美しい衣装や豪華な舞台、華やかな音楽などを思い出されるのではないでしょうか。

2本目の柱は、20世紀に入り特定のバレエ団のために創作された、マスターピース(傑作)と言われる作品群です。名作である故に、他のバレエ団でも演じられるようになったこれらの作品の振付家には、20世紀最大の巨匠と言われるジョージ・バランシンも含まれます。バランシンはチャイコフスキーの曲をテーマに多くの作品を創りましたが、彼にしか出来ない独特の曲の解釈から、知っていたはずの名曲が違う曲に聴こえてくるような瞬間があります。代表作の一つ「セレナーデ」は、これを踊るためにプロになったと感じるダンサーもいると聞く美しい作品です。又、アジア人として最初に欧米のバレエ界に認められたシンガポール人の振付家チューサン・ゴーもこのカテゴリーに入ります。3月に上演した「ロミオとジュリエット」は、短命だったチューサンの唯一のフルスケールの作品です。この作品は様々なバージョンがありますが、チューサン版は「運命」と言う名の精霊が悲恋を導く解釈が幻想的な雰囲気を醸し出しています。(7月号15ページの写真をご覧下さい)

3本目の柱は、「新作」として特定のバレエ団のために創られる作品です。全くゼロからの創作ですので、バレエ団としての力量が試される分野でもあり、観客にとっては、幕が開くまでどんな作品か分からぬワクワク感や、踊りに自分のストーリーを膨らませる楽しみのあるカテゴリーです。

バレエは、若干定義は異なりますが、クラシック、ネオクラシック、コンテンポラリーという3本柱に分類されることもあります。何にせよ、この3つの要素をレパートリーにどう組み入れるかで、そのバレエ団の性格や方向性は決まります。クラシックの得意なバレエ団もあれば、コンテンポラリーを中心に上演するバレエ団もあります。SDTはというと、6回の定期公演に3本柱が全て含まれており、しかも同じダンサー達が踊るという点がユニークで、レパートリーの幅の広さがカンパニーとしての質の高さや各シーズンの面白さに繋がっています。

今日では、短いバレエを組み合わせたプログラム、テーマのあるプログラム、作曲家や振付家の特集、芸術祭等、公演は多様化しています。多様化の恩恵は、何と言っても自分が好きな作品に巡り合う可能性が高くなることでしょう。様々な作品を見ることで、鑑賞の幅が広がり、感動の質も変わります。心に響く作品との出会いは、心地良い余韻が広がります。

一度のご観覧で好き嫌いを決めず、シンガポールにいらっしゃる間に様々な舞踊や音楽に触れてみてはいかがでしょう。海外バレエ団や演奏者の公演も含め、お一人で、あるいはご家族やお友達同士で舞台を楽しめる選択肢があるという点で、シンガポールは幸せな国だと思います。

画像提供: Singapore Dance Theatre、三浦文明

プロフィール: ヤング靖子

Singapore Dance Theatre, Ambassadors Council
一時帰国のない夏休みは、シンガポール暮らしの楽しさを再発見する時間でした。スタジオでは3ヶ月ぶりに練習が再開され、7月末のオンライン・ガラに向けてリハーサルが続いています。皆様もお元気でお過ごし下さい。



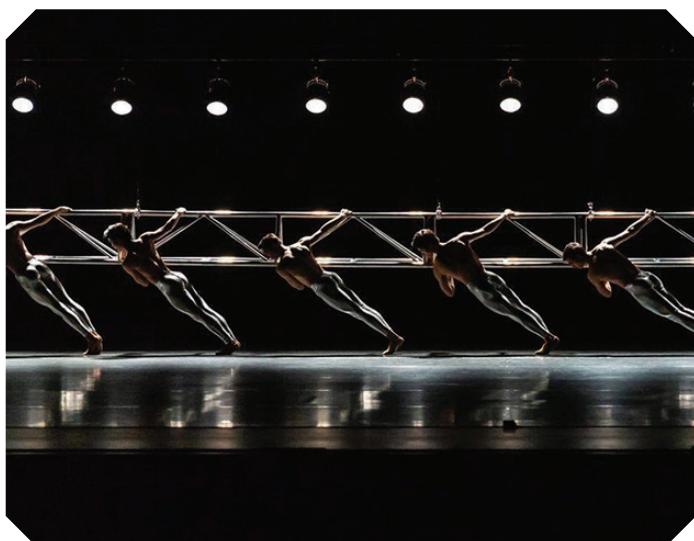
HPでは英語でも読み頂けます。
English version is available on our website.



チャイコフスキーの曲が有名な「くるみ割り人形」はクリスマスの時期が近づくと世界中で上演されるクラシックの定番



20世紀の巨匠、バランシンが渡米後最初に振り付けたバランシンの原型とも言われる代表作「セレナーデ」



元はワシントン・バレエのために創られたマスターピース「SYNC」



SDTのために創作されたNatalie Weir 作「Bittersweet」



クラシックの代表といえば「白鳥の湖」 写真は2019年公演、峯岸伽奈さんと中村憲哉さんの日本人ペア